

マニュアルで簡単に!カキ大苗育苗

要約

カキ老木園の改植を推進するなかで、育苗後1年で定植でき、重量・容積も軽い大苗育苗方法が開発・マニュアル化され、大苗育苗不良園や新規生産園への指導方向が明確となった。その結果、育苗がうまくいかなかった組織を指導・改善し、従来の組織も一定の技術レベルを保つとともに、取組組織全体の技術レベルも底上げすることができた。

現状(背景)と課題

- ・老木化をはじめとした産地の生産性の低下
- ・生産する人の技量差による大苗生産のバラツキ
- ・栽培管理マニュアルの完成

目標

- ・1年間で簡単に大苗育苗できるマニュアルの普及
- ・1人で運搬が可能な大苗育苗安定生産の実現

活動内容

- ・昨年度生育不良苗が発生した生産組織に対して、大苗栽培技術（軽い材料を用いた用土配合方法、かん水方法、肥料やりの方法など）をマニュアルに基づき重点指導実施
- ・南部農林振興事務所農業普及課とともに大苗育苗圃場の巡回による問題点の抽出と指導した園地の改善度合いの確認

成果

- ・10L程度のポリエチレン鉢とそれに合わせた軽量用土による育苗が可能になった
- ・マニュアルに従った指導により栽培管理技術が向上し、昨年度までのものに比べ樹勢の良い大苗が安定して生産できるようになった



指導前の大苗 (H25.7)



指導後の大苗 (H26.7)

普及活動のポイント

- ・対象となる組織には、用土づくりからマニュアルに則し共通認識を高めるように指導した。その結果、会員全員で共通の意識をもって圃場を管理することにより、安定生産につながった。
- ・南部農林振興事務所と大苗育苗圃場の巡回をはじめ、改善が必要であった組織に重点的に圃地巡回を実施することにより、大苗生産技術が指導できた。

対象の変化

- ・用土・かん水など管理方法の重要性が認識され、用土への投資と共同作業による作業リスクの分散が図られるようになった。また、当マニュアルにより生産した大苗が商品として取引されるようになったことから、より熱心に管理するようになった。

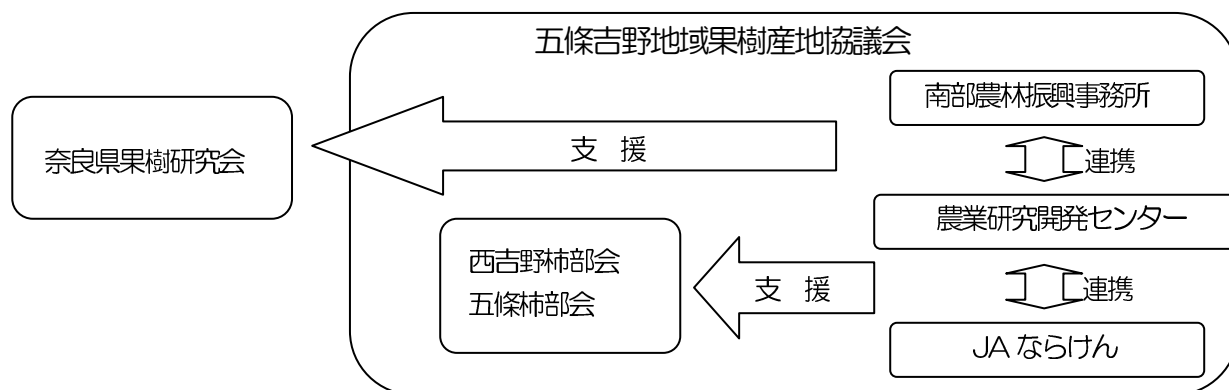
対象者からのコメント

- ・組織で問題となっていた大苗の生育の悪さがたった1年で改善できた。
- ・新規でも簡単に他の生産者から買ってもらえる大苗が育成できた。
- ・自分の背丈ほどの大苗が持ち運べる軽さでできるようになった。

これからの活動ビジョン

- ・大苗育苗マニュアルによる均一化した栽培指導により、生産者（特に新規実施者）がより簡単に栽培のポイントを理解できるようにさらに推進する。
- ・新品種の導入が簡単になることから、消費動向に合わせた経営戦略が狙える産地づくりを進める。

活動体制



用語解説

大苗育苗

購入した苗などをそのまま圃場（畑）に植えるのではなく、1～2年間大きな鉢に植えて栽培することで、根鉢があり、植え付け翌年には実がなる大きな苗に仕上げる栽培方法。

用土

様々な材料を配合した鉢土のこと。